

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 4月10日

【評価実施概要】

事業所番号	4270600564
法人名	有限会社 セイコー
事業所名	グループホーム あすか
所在地 (電話番号)	長崎県五島市吉田町740番 (電話) 0959-75-0350

評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成19年12月10日	評価確定日	平成20年5月7日

【情報提供票より】(平成19年10月17日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年2月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	11 人	常勤	11人, 非常勤 0人, 常勤換算 5.8人

(2) 建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	木造平屋造り	
	1 階建ての	1 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	9,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	150 円	昼食	250 円
	夕食	400 円	おやつ	50 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	3 名	要介護2	11 名		
要介護3	2 名	要介護4	0 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 79.9 歳	最低	68 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	五島中央病院、ささき歯科医院、聖マリア病院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

畑であったホーム建築用地の地均しや測量を、運営者である会長自ら職員と共にされているのを近隣の会社の方が見て、自然な形で手伝ってくださりH.16.2. に開設された。畑作りや子供達と一緒に掘りを手伝ってくださったり、車のメンテナンスやホーム周辺の草刈りを自発的・積極的にされ、お茶飲みに寄られたりと開設前から深くかかわって頂き、その交流は今も続けられている。会長は障害者自立支援事業等の福祉事業に深く関与しており、入居者と共に過ごし地域の方々の生活に目を向けながら高齢者の相談に応じたり、市との連携や職員教育についても積極的にに関わり、個々の職員の向学心への支援を行う等質の向上に取り組んでいる。入居者の日々の様子を写真に撮り一人ひとりのお便りを作成し、近くの方だけでなく遠方の家族の方にもお送りし安心して頂けるよう取り組み“あんしんの家、すてきな出会い、かていの雰囲気”という理念が職員の心の中に根付き実践されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	センター方式を取り入れて介護計画を作成しているが、前回外部評価結果を基に改善策を職員皆で話し合い、更に深く掘り下げ個別・具体的な課題の抽出がされるようになってきている。入居者主体を意識して具体的な目標をたてケアに反映し、安心して望む暮らしができるよう取り組まれている。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は自己評価によって新たな気付きにつながる事を伝え、職員に聞き取り調査をし集約している。職員は今行っているケアに自信が持てた事や、外部評価の結果とケアを照らし合わせながら振り返りを行っている。前回評価結果を基に全職員と改善策を検討し“入居者主体の介護計画”作成に向けて取り組みを続けている。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	外部評価の結果とケアを照らし合わせながら振り返りを行い、前回評価結果の改善策を検討し“入居者主体の介護計画”作成に向けて取り組みを続けている。推進会議の開催方法や内容について戸惑いがあったが、年間行事や外部評価の結果報告についてや勉強会等を取り入れながら行っている。施設長は手続きやホームの情報提供をし窓患痴へ積極的に続けたり、推進会議の開催について等相談に乗って頂いている。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	暮らしぶりやご入居者の健康状態などは毎月あすか便りでご家族に報告しており、ご意見や苦情は直接面会時に必ず「何かないですか」とおききしたり意見箱を設置し広く意見を求めている。ご意見があれば申し送りノートに記録し皆で対応策を話し合い記録に残して全員で共有している。
重点項目 ⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホーム前はマラソンのコースで夕涼みがてらの応援や、地域行事に職員が参加し入居者と共に応援幕を作って応援した。夏のバーベキュー・花火大会に地域の方に声をかけて来て頂き、入居者・家族の方と共に楽しんでいる。中学生のボランティアや幼稚園児の慰問を受け入れたり、ホーム周囲の道路掃除を入居者と共に行ったり、施設長が老人会の寄り合いに参加し地域の一員として取り組んでいる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	“安心して沢山の出会いが、家に居る時と同じように毎日あるように”という、会長の思いを込めH.16.2.1に『あしんの家、すてきな出会い、かていの雰囲気』と理念を掲げた。市民の苦情処理等の相談に関わったり、近隣や地域の方に地域に密着したホームの良く割を伝えられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事務所内に理念を掲示したりパンフレットへ掲載し、申し送りの時や定例の会議の中で、入居者は生活の全搬について職員を頼りにしている部分があり、何か気になる時等その都度理念の確認をした話し合っている。ケア場面で声かけや態度、記録等を何かある毎に新たな発見があり、気付けられている。楽しく笑顔でお腹の底から笑う瞬間を安心して共有できている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム前は市民駅伝や夕焼けマラソンのコースで、夕涼みがてらの応援や、ふくえ祭りや大綱引きに職員が参加し入居者と共に応援幕を作って応援した。夏に行うバーベキュー・花火大会に町内会長、地域や通行中の方に声をかけ見に来られ「使い残しだけ」と花火を頂き、入居者・家族の方と共に楽しんでいる。中学生のボランティアや幼稚園児が太鼓演奏の慰問受け入れしている。ホーム周囲の道路掃除を入居者と共に行い、施設長が老人会の寄り合いに参加し地域の一員として取り組んでいる。施設長は行政相談員として週1回地域の方の認知症相談にあたっている。	○	ホーム開設にあたり地域の方の協力を頂いており、自治会入会もしているが回覧版を回す際、入居者と一緒を持って行く事等で顔馴染みになり、交流をも深め地域に溶け込んでいきたいと考えており、更なる取り組みに期待していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	会長は障害自立支援事業に携わり、管理者は自己評価により“こういう事をしなければ”等、新たな気付きにつながる事を伝え、職員一人ひとりに聞き取り調査をし集約している。自己評価を行った事で、今行っているケアに自信が持てた事や、新たな気付きを日々のケアに活かせるよう、外部評価の結果とケアを照らし合わせながら振り返りを行っている。前回評価結果を基に全職員と改善策を検討し“入居者主体の介護計画”作成に向けて取り組みを続けている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の開催方法や内容について戸惑いがあり、町内や老人会会長、民生委員、家族、会長、社長、職員でH.19.1.より入居者状況、年間行事や外部評価の結果報告、勉強会等を行っている。活発なご意見が困難な議題について要望をお聞きしたり、事前に資料を配布している。産地の農作物購入の話も頂いているが、担当職員や量的な問題等もあり、具体的には進んでおらず“○○産”の野菜を購入している。	○	施設長が相談員である事を活かして介護保険講座を取り入れたりと、出席しやすいよう行事の日を利用する事を考えている。入居者が参加できるようにお茶の時間を利用したり、気軽に意見を言える場として地域の方にも参加して頂いたり、地域としてホームにして欲しい事や、ホームが出来る事を一緒に考える等、活発なご意見を頂けるような取り組みに期待していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設長が介護保険の更新手続きやホームの活動内容等の情報提供を市の窓口を訪れて行っている。担当者の方と接する時間が限られており、十分に伝えられていないが今後も積極的に続けていく。推進会議の開催についてや介護度、認定調査について必要な時に相談に乗って頂いている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	健康状態や暮らしぶりが書かれた入居者一人ひとりの“あすか便り”に、行事等ホーム全体の事を書き加えており、担当者が日々の様子を手紙に書いたり、入居者自身が書かれた手紙も、毎月請求書と共にキーパーソンや他の家族にもお送りしている。健康状態等で気になる事や担当職員が変わった時等その都度電話で報告し、ホーム便りに掲載すると共に来訪時に管理者が紹介している。金銭は預からない方針であるが、買物等ホームで立て替えを請求書と一緒に領収書をお送りしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置し来訪時に「何かありませんか」と常に声をかけ、話す時間を作って部屋にご案内するようにしているが、リビングで過ごされる事も多く、職員も“ゆつりのんびり”余裕をもって接し、家族から料理法を教えて頂く等自然に過ごされている。市・県等の相談窓口を掲示し必要に応じて口頭でお伝えしている。直接ご意見頂く事があり、全体的な事は会議で検討し申し送りノートで共有し、個別な事はケース記録に残している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的に定期異動は行っていないが適性等考えた関連施設の異動はあり、日課やドライブ等ユニット合同で出かける機会も多く、入居者の把握や協力体制の意味合いも含めユニット間での異動は行っている。有給休暇の取得奨励や食事・職員親睦の場を設けている。職員交代時は入居者のその時の状態に応じて説明方法を変え、新入職員に対してはその都度教育担当者を決め、1週間同じ勤務をしながら入居者についての情報提供や指導を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	“全ての職員が研修に行ける”事が会社の方針であり、県等主催の外部研修に毎回必ず参加し、研修で感じた事・今後どのように活用するか等の報告書提出と毎月会議で伝達研修を行い資料を回覧している。看護師が中心になってボディメカニクスを利用した移動や誤嚥時の対応について、会長がケアについてやアドバイスを行っている。特技を活かすレクレーションインストラクターや希望する資格取得に関しても、事前研修から模擬試験、旅費等も会社で負担している。	○	新人・中堅・専門等のステップアップ研修についての計画の構想はあるが、書面に落とし込んだ物はなく今後、会社と話し合いながら育成計画として、本人とも話し合い明確な目標として提示し、自己啓発につながっていくよう期待していきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	五島市グループホーム連絡協議会・交流会、職員育成や困難事例、ケアについての合同検討に施設長やケアマネジャーも3ヶ月に1回の定例会に必ず出席し、電話やメールでの情報交換を行っている。職員が参加する機会は少ないが、研修の時に個人的に交流したり相互訪問や半日見学したり、職員で話し合いながら良い面を取り入れている。	○	他ホームとも情報交換を行ったり相談しながら見学から始め、交換研修に発展させて行事で、自分達のケアの振り返りにつなげたり新たな気付きを得ることが出来ると考えており、今後も更に交流を通じて向上される事に期待していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	施設長・主任が入居前にご自宅や病院に伺ったり、本人・家族に見学に来て頂いたり、ディサービス利用時は利用者、職員も行ったり来たりしながら顔馴染みになっており、特に不安がられている様子はない。生活習慣や趣味等の情報を家族からお聞きし、安心して生活が出来るよう努めている。	○	事前面接を施設長や主任だけでなく、状況に応じて職員も同行する機会を作って行きたいと考えている。職員が入居者の思いや行動の背景についての理解や、思いの共有にもつながり、入居者にとっては顔馴染みの関係が出来、安心した生活の移行になっていくと考えられる。今後の取り組みに期待していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食材を見て頂き料理法や味付け、材料の分量等教えて貰ったり、食べ物にまつわる言い伝えなどお聞きし、入居者の生活されていた時代と今の違いを教えている。入居者の笑顔や「ありがとう」と言われて嬉しくなり、お手伝い頂いた時には必ず「ありがとう」と感謝の気持ちをお伝えしている。気持ちの余裕がない時に「バタバタせんで良かよ」と言われ自分自身を振り返られる。		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自室に帰られた時にお聞きしたり、仲の良い方と話されている時にさりげなく傍で聞き、「嫌な事、して欲しい事」等の気持ちを把握している。「外を自由に歩きたい」と車椅子利用中の方が希望され、足あげ、足踏み、移動の見守り、歩行訓練等一緒に取り組み、杖歩行が出来るようになった。把握が難しい時もしぐさや表情から思いを汲み取ったり、家族から生活習慣等をお聞きしたり、出来そうな事についてお聞きしたり様子を窺いながら意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	『その人らしく暮らし続ける』ための課題は具体的に盛り込まれているが、目標は介護者主体になっている方や『地域で暮らす視点』も、盛り込まれている方とそうでない方がおられる。入居者の希望をお聞きしたり入居者の思いを汲み取りながら、家族のご意見や気付きや主治医にアドバイスを頂き、職員と話し合って計画を作成している。実施されているケアの全ては記載されていないが、ケアする際のポイントは書かれている。	○	入居者の思いや言葉をアセスメントし、より個別・具体的な目標や地域で暮らす視点を、全入居者の計画に盛り込むと共に、行っているケアの全てを記載していく事で、ケア方法や留意点を統一することができる。主治医へ計画書をお渡しする等の取り組みに期待していきたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しを3ヶ月毎に行っており、入居者の状態の変化や要望等に変化があれば、その都度臨機応変に見直しを行っている。特に変化が見られない時にも、全入居者について毎月1回ケアの検討を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	看護職員に24時間連絡できる体制で相談し、必要に応じて対応する等の健康管理を行ったり、家族や医師と情報交換しながら早期退院に向けた支援を行っている。外泊時の日程調整や準備、行きつけの理・美容室や履物屋・洋服屋・薬局や彼岸の墓参り、回忌の寺参りや毎月礼拝に行ったり神父さまが来られたり、受診に合わせて外出する等ご希望に応じて支援している。		
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	住み慣れた場所のかかりつけ医に受診し友人と会って話し、活き活きとし「私が今いるのはこの人達にお世話になってるお陰です」と主治医にも紹介して頂いている。主治医と何時でも電話相談や指示を頂く事が出来、ホームに見学に来て頂く等コミュニケーションは良好に保たれている。受診結果に変化がない場合も報告し、家族と定期受診された場合もホームでの様子をお伝え出来るよう、家族へメモをお渡ししケアで気をつける事等の助言を主治医から頂いている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の対応について現状では、ホームでの看取りは難しい状況であり、入居時に体調の変化や重度化が考えられる場合に、他施設等に変更して頂かなければならない事をお伝えしており、必要に応じて主治医や家族、ホームで話し合い対応していく事を、ご理解し納得、安心して頂いている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	生活背景や希望等を考慮し名前でお呼びしているが、目上の方に対する尊敬の念を持って接し、入浴介助時に異性を嫌がられる時は前もって交代したり、ケア会議の中で気づいた事を注意し合う等、羞恥心に配慮している。全職員が個人情報保護法を理解し、書類等の保管や処理についても情報の漏えい防止につとめている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食後のゆっくりした時間に、どのように過ごしたいかお聞きしたり、受診の帰りに以前住んでいた場所に寄ったり、天気の良い日はドライブしたりしている。ご希望を表わされない方も健康状態を見ながら外へお誘いしたり、生活リズムが取れるよう声かけは行うが、無理強いせず少し誘導したり、一緒に座って話をする等しながら思い出して頂けるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買出し、調理の下ごしらえや味見、盛り付け、食器の配・下膳や食器洗い等、入居者の能力に合った部分を手伝って頂いている。職員も一緒に食事をし楽しい雰囲気を作ったり、嚥下力低下で食形態が異なる時も、見た目があまり変わらないように盛り付けを工夫したり、行事のパーベキューや重箱におせちを詰めたり、冷汁やきびなの炒り焼き、旬の食材、菜園のねぎを取り入れ、美味しく楽しんで食べられるようにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間・回数はある程度決めているが、他方のユニットでも入浴に対応でき、ほぼ希望に沿って支援出来ている。体調に無理のない範囲で入っている時間や湯温等、個別に対応順番はその都度お聞きしながら入って頂いている。入浴を嫌がられる方も風呂場へ案内し、家族が買って来られた入浴剤を入れるのを見て頂き、入浴されるようになった。菖蒲湯やゆず湯を取り入れ、季節を楽しんで頂けるような工夫もしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者や家族から生活歴や趣味等をお聞きしながら、台所仕事や裁縫・刺繍、演歌を聞く、絵を描いたり手作業が好きな方にクリスマスリースを作って頂き飾ったり、菜園のイモ掘りやクワの使い方等を教えて頂いたり、毎日新聞屋が来るのを待って新聞を取って来る等、入居者の役割や楽しみ事を把握し支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	行きつけの店に買い物にいたり、お墓参りやお寺や教会へ行ったり、習慣とされていた外出の支援を引き続き行っている。通院時に足を伸ばして以前住んでいた場所に寄ったり、ドライブに行ったり、本人の希望に応じた外出や玄関先のベンチで日光浴をする等気分転換やストレス発散が出来るようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯の為21時～6時30分施錠しているが、日中は自由に入り出来るようになっている。玄関は自動ドアでセンサーを設置していたが、猫が通ってもセンサーが反応する為センサーを止め、入居者の落ち着かれなくなる時間帯や原因等を予め把握し、事前に対応したり職員同士で声を掛け合っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回火災を想定し入居者、当日に勤務者で避難訓練が行われ、1回は消防設備会社の方も参加している。災害時にホームの向かいの方や隣接している会社の方に避難場所としてお願いしたり、推進会議や町内会に協力をお願いし連絡網も整備され、自動通報装置が完備され経営者、職員への連絡と同時に連絡網を通じて連絡できるようになっている。台風での経験を基に災害に備えて飲料水や食料品、寒さをしのぐための物品は準備されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の好みに合わせて別皿に盛ったり、調理法を変えたり嫌いな物を把握し、おやつや飲み物の種類が選べるようにしている。食事摂取量を把握・記録し、水分量については職員同士で情報交換し必要量が摂取できているか把握している。書籍や資料を参考にカロリーや栄養を考えて職員2人1組で1週間分の献立を作っているが、市の栄養士にチェックして頂き助言に従いながら作成し、定期的な体重測定を行い、栄養バランスを考えている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には大きな水槽があり金魚や亀が飼われており、入居者や来訪者の癒しになっている。リビングの円テーブルは皆の顔が見え、1つの場所で和やかに過ごせるようにと会長の配慮があり、自然に食後の歓談が始まっている。畳の部屋で洗濯物をたたんだり、おしゃべりしながら集いの場になっている。窓を開け朝の空気を取り入れるよう心がけ、消臭剤を置いたり換気にも気を配る事や、観葉植物や花を飾り五感で季節を感じて頂いたり、家具の配置等入居者の意見も取り入れ、自分の家として居心地良く過ごせるように配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドとタンスはホーム備え付けになっているが、本人の状況に応じて布団を使用して頂いたり、以前から使われていた姫鏡台や籐椅子、ソファ等馴染みの物を持って来て頂き、家具の配置は本人と家族と一緒に考えて、過ごしやすい工夫されている。手作りのパラモン凧や家族写真等が飾られ、居心地良く暮らせるよう努めている。		